

(様式第2号)

福祉サービス第三者評価結果報告書

事業者名 認定こども園 おおぞら幼稚園

評価実施期間 平成29年8月4日～平成30年6月15日

1 評価機関

名称	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号

2 事業者情報

【平成29年8月31日現在】

事業所名称： 認定こども園 おおぞら幼稚園	サービス種別： 認定こども園
開設年月日：平成27年4月1日	管理者氏名：上原 真由美
設置主体：学校法人 上原学園	代表者氏名：理事長 上原 樹縁
経営主体：学校法人 上原学園	代表者氏名：理事長 上原 樹縁
所在地：〒893-1203 鹿児島県肝属郡肝付町後田伊東9808番地	
連絡先電話番号：0994-65-9711	FAX番号：0994-65-9007
https://www.kids-ao.or.jp	E-mail oozora@viola.ocn.ne.jp

理念・基本方針

【基本理念】

“ともに育ちあう” It's a Passion 燃える情熱を子どもたちの夢に！
全ては子どもたちの「今の幸せ」のため！ そして「未来の幸せ」のため！

【基本方針】

認定こども園（幼稚園）、家庭、地域の連携のなかでともに支え合いながら、子ども、保護者、スタッフがともに育ちあう

【保育理念】

生きる力を育み、人として調和のとれた子どもを育成する
～ 心の動きに寄り添った勇気づけの保育の実践 ～

【教育・保育目標】

心身共に健康で、基本的な生活習慣と人間性豊かな情操を育成し、子どもの発想を大事にして個性の進展を図る

【保育方針】

- ・子どもの生命と権利を尊重し、生きる力を育てる
- ・豊かな心と身体を大切にし、基本的な生活習慣を身につける
- ・個性と仲間意識の心を大切にし、人間性豊かな創造力を育てる
- ・感謝する心を大切にし、正しいことは勇気をもってやりぬく実行力を育て

る

- ・意欲と思いやりの心を大切にし，誰とでも仲良く遊べるよう育てる
- ・感謝する心を大切にし，人の役に立てる人格の形成（未来社会への貢献）を目指す

【施設・事業所の特徴的な取組】

- ・子どもの心に寄り添った“勇気づけの保育”を全スタッフで実践しています。
- ・英語教材を使って，まるで外国人教師がそばにいるかのような環境で，毎日（10分）の“英語あそび”を楽しんでいます。
- ・月2回，外部講師による指導のもと，3歳～5歳の子どもたちを対象に体幹を使った“運動あそび（コーディネーショントレーニング）”を実施しています。

【利用者の状況】

定員 100人	利用者数 119人
---------	-----------

※ 施設種別ごとに，利用者の年齢階層，利用期間，障害の程度・内容など，その施設の特徴が明らかになるようなデータを適宜添付してください。

(2)現在の利用者数

	合計(人)	男子(人)	女子(人)
1歳未満	2	0	2
1歳以上2歳未満	8	3	5
2歳以上3歳未満	19	9	10
3歳以上5歳未満	60	21	39
5歳以上	30	13	17
計	119	46	73

(3)入所理由別利用者数 (2)の内訳

親の就労	89人	75%
親の病気・入院	0人	0%
親の介護・病人の世話	0人	0%
その他	30人	25%

合 計	119 人	100%
-----	-------	------

【職員の状況】

職 種	勤務区分				※常勤換算	※基準職員数	
	常勤(人)		非常勤(人)				
	専従	兼務	専従	兼務			
園長	1				1	1	
主幹保育教諭	1				1	11	
保育教諭	7		12		14.2		
栄養士			1				
その他			5				
計	9		18		16.2	12	
前年度採用・退職の状況			採用	常勤	1 人	非常勤	4 人
			退職	常勤	人	非常勤	3 人
○常勤職員の当該法人での平均勤務年数						8年7ヶ月	
○直接処遇に当たる常勤職員の当該法人での平均勤務年数						5年5ヶ月	
○常勤職員の平均年齢						34・1 歳	
○うち直接処遇に当たる職員の平均年齢						35・5 歳	

※常勤換算数及び基準職員数は、当該職について、運営基準等で定められている場合のみ記入してください。

3 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年8月4日（契約日） ～ 平成30年6月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（平成 年度）

4 評価の総評

◇特に評価の高い点
面接の聞き取りの中で、理事長のリーダーシップを伺わせる言葉が数多く聞かれたことが印象的であった。常日頃より、理事長の理念が園長や主幹保育教諭に浸透し、その中で園の運営が行われている事が確認できた。なかでも、「生きる力を育み、人としての調和のとれた子どもを育成する。子どもの心に寄り

添った” 勇気づけの保育” の実践」を教育・保育理念として掲げ、園長はじめ全職員が一体となって取り組んでいる。そして、約20年間続けている「幼児が自ら考える行為そのものに意義がある」という” 知恵のみあそび” 英語教材を使っの毎日の” 英語あそび”、月2回外部講師による指導のもと、3～5歳の子どもを対象に体幹を使った” 運動あそび” を実施している。特に、” 運動あそび” の実施における半年ごとの評価・分析では目を見張るような実績を上げている。

◇改善を求められる点

実際行われている事が、マニュアルとして整備されていないものがあるため、再度日々の教育・保育の中で、子どもたちへの関わりや家族支援、記録等について実践していることを見える化し、計画・実施・評価・見直しという流れがしっかり確認できるような取り組みを期待したい。

5 第三者評価結果（別紙）

6 利用者調査の結果(別紙)

7 事業者の自己評価結果(別紙)

8 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回の第三者評価は、自法人・園の振り返りの機会ととらえ、健康診断の位置づけで受審しました。全職員で現状認識をすることで、今後の取り組む課題としてだけでなく、原点に返ることや心機一転の見直し、仕組みづくりとその実践に力を注いでいきたいです。何より、理事長の理念や自園の教育・保育理念を全職員で再確認できたことで、それぞれが気持ちを新たに日々の保育に向かっていることに感謝しています。

今後も子どもや保護者の心の動きに寄り添い、ともに育ちあっていきたいと思ひます。ありがとうございました。